

## 大工と鬼六

(8分)

劇団 オン・サンタ



むかし：あったときあ  
あるところにとても流れの速い川があって いくら橋をかけてもすぐに流されてしまう：村の人たちはとんどこまっていた：  
そこであるとき皆で相談をして そのあたりで一番腕のいい大工に橋掛けを頼むことになった：で：お使いの人が行って頼むと大工は

うん：」と行ってすぐに引き受けたんだときあ：

引き受けてはみたものの：大工はちよっぴり心配になったので 次の



1

日の朝早く 橋をかけることになっている川へ様子を見に行った：  
そうしてゴウゴウ 音を立てて流れる川の様子をじーっと見ていると  
流れの中にブクッ：ブクッ：ブクブク：と泡がたって中からブククリ大きな鬼が顔を出した：

劇団 オン・サンタ



大工どん：お前そこでなにしちよる：」と鬼が言うくと大工は  
ああ：オレはこの川に橋掛けを頼まれたで どうにかして立派な橋  
をかけたいと思って考えていたところだ：」と答えた：

正めておけ：なかなか人間がこの川へ橋をかけられるものではない  
わ：だがな：大工どん：これは相談だが、もしもお前がお前の目ん玉を  
オレによこすのならオレが橋をかけてやってもいいぞ：」

大工はその時考え事をしていたものだから、

2





オレはどうでもいいわ：」といい加減な返事をしてその日は別れたんだとさあ：

次の朝：大工が川へ行ってみると橋が半分かかっていた：

そのまた次の朝：大工が川へ行ってみると、驚いたことに橋はすっかり出来上がっていた：それはそれは丈夫そうな橋だったので大工が呆れて見ていると、そこへブツクリ鬼が現れた：

どうだ：大工どん：

いやあ：すごいもんだなあ：とてもオレにはこうはできん

そうだろう？：さーて：オレは約束を守った：今度はお前が約束を守る番だ：さあ：お前の目ん玉よこせえ：

3

そういわれて大工は驚いた：

「いや：オレは大工だ：目ん玉取られたら仕事にならん：勘弁してくれ」

だめだ：約束は約束：さあ：お前の目ん玉よこせーッ

助けてくれーッ」大工はどんどん逃げ出した：すると後ろから鬼がなら、大工どん：オレの名前をいい当てられたら許してやってもいいぞーッ

大工はその声を聞きながらどんどん逃げた：そうして山の中へ入ってあっちの山：こっちの山：どのくらい歩いただろうか：大工はすっかりくたびれて木の根っこに腰をおろして休んでいたとき：

4



ん玉よこせ」

待ってくれ：まだ考えた名前がある：お前の名前はダイザエモンだ

6



ぞ：」

本当かあ？それなら言ってみろ」

ああ：お前の名前はガワタロウだ」

違う違う：そんな名前ではない：なかなか鬼の名前をいい当てられるものではないわ：さあ、諦めて目ん玉よこせ：」

待ってくれ：名前は他にも考えた：お前の名前はゴンゴロウだ」

ゴンゴロウ？違う違う：お前にオレの名前は当てられない：さあ目



次の朝：大工が川へ行くと、そこへブツクリ鬼が現れた：  
大工どん：さあ：目ん玉よこせ」  
オレは大工だ：目玉は勘弁してくれ：」

5



すると遠くの方からこんな歌が聞こえてきた：

早く鬼六あ目ん玉：持ってこば ええなあ：

早く鬼六あ目ん玉：持ってこば ええなあ：

その歌を聴くと大工はすっかり安心してその日は家に帰ってぐっすり眠ったとさあ：



「…」

違う違う…もう待てないぞ…さあ…本当に目ん玉もらうぞ…よこせ

「っ」

待ってくれ…もう一回…もう一回だけ当てさせてくれ…」

「よし…これが本当に最後だぞ…」

「わかった…お前の名前は…」

「おう…オレの名前は…?」

お前の な・ま・え・は…おにろくっ」

ぎいたなあーっ」

鬼は言うどブックリ川の中に消えてしまいましたとき…



いっちゃんぼーんさけた…おしまい

《参考資料》

- 『だいくとおにろく』 松居直・再話 赤羽末吉・画 福音館書店
- 『天工と鬼六』 まんが日本昔ばなし サラ文庫 二見書房
- 『日本の昔ばなし 3』 関敬吾・編 岩波書店